



佐藤 筐子 議員

- 1、精神障害への理解を広げて
- 2、男女共同参画基本計画第3次案について
- 3、災害ボランティアの方向性を示せ

Q 一月末に仙台で「災害ボランティアの可能性」というシンポジウムがあり参加した。熊本・岩手・宮城の各社協からと東京のNPOがシンポジストとなり、コーディネーターは鳥取県からで各人の意見はとても参考になり有意義だった。東松島市にも市外からボランティアとし

A 市長 災害が発生した場合、ボランティアによる支援活動が重要なものとなっている。平成15年・23年の災害

て活動した方々、あるいは市外へボランティアとして活動してきた経験者から市民向けの「方向性」を考える機会があればいいのではと考えるがいかがだろうか。

には延べ10万人を超えるボランティアの参加があり被災者の生活再建に大きく貢献していただいた。東松島市では社会福祉協議会の協力により被災した自治体へのボランティアセンター運営スタッフを派遣している。ボランティア養成講座の開催登録制度の創設を検討。

Q 災害ボランティアの方向性は
A 登録制度の創設などを検討する



▲鷹来の森運動公園屋内運動場



熱海 重徳 議員

- 1、体育施設の整備利用について

Q 鷹来の森運動公園において、整備要望の対応について。
A 教育長 ①要望に對しては市単独

①鷹来の森運動公園において、整備要望の対応について。
②スポーツ協定後の日本体育大学との連携行事について。
③休館日の利用について。
④移転後の鳴瀬小中学校の体育館・校庭の利活用について。

事業費の支出になるため、なかなか改善に至っていない。今後は社会体育施設全体で優先順位を決めながら対応したい。
②協定初年度で大学側も年間行事が決まっており、連携が困難だった。今後は学校や地域、体育協会から要望等も把握し、スポーツを通じた事業を展開していく。

A 市長 ④移転後の利活用は校舎も含めて一体方式、分離方式の両面から模索が必要と考えている。地域の意見も把握しつつ、地域活性化に寄与する方法を検討していきたい。

Q 体育施設の整備利用について
A 優先順位を定め対応する



▲仙台市で開催された災害シンポジウム